

市の台所の実情

財政公表

宇治市告示

地方自治法第243条の3第1項の規定ならびに宇治市財務条例の規定に基づいて、昭和40年度上半期分の財政事情及び39年度決算(見込)の状況を公表します。

昭和40年10月31日

宇治市長 新庄 義 信

はじめに

市民のみなさんに本市の財政事情をお知らせするため、毎年財政の公表を行なっています。今回は昭和40年4月1日から9月30日まで(40年度上半期分)の実情と、昭和39年度

の決算の状況をお知らせし、みなさんに市の財政に対する理解を深めていただき、その運営に一層のご協力をお願いするものであります。

ことしの予算と主な事業

9月30日現在の予算の規模は12億になり、昨年同期とくらべて2億9,000万円ほど大きくなりますが、これは菟道小学校の全面移転改築をはじめとする事業費の増大によるもので、市政の発展をうかがうことができます。

収入支出の状況において、収入済額3億7,600万円、支出済額4億4,200万円、収支差額6,600万円については大蔵省資金運用部資金、郵政省簡易保険資金からの一時借入金により支出しているのがあります。

歳入において、市税収入は予算に比べて45%の収納があるのがありますが、国庫支出金、起債等は事業の進み具合によって漸次収納されることから、収入総額は予算に比べて31%になっております。

一方歳出については、総額に対する支出歩合は、予算額に対して36%ではありますが、各科目とも下半期において別表の事業等が着実に進められていくことになっております。

今年の主な事業(300万円以上)

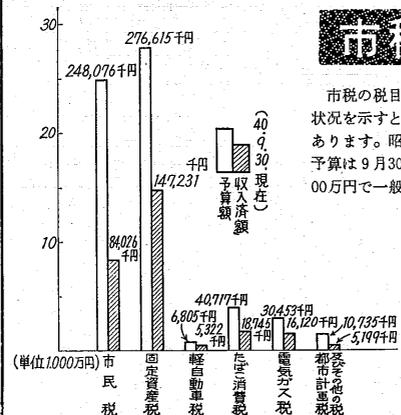
歳 入		歳 出	
市税	276,643	議会費	22,201
国庫支出金	139,318	総務費	172,281
市債	25,516	民生費	83,028
その他	38,356	衛生費	60,992
収入済額	1,206,721	教育費	176,464
支出済額	376,316	土木費	253,508
		総務費	153,402
		その他	52,249
		計	442,241

として別表のとおりですが、この他300万円以下の事業費とあわせると、事業項目は約40件で総額6億3,200万円となり、これは39年度決算見込額の事業費総額に比べて、2億1,000万円の増加となるのであります。かねてから念願の市民会館が9月に完成したことは、みなさまもご承知のとおりですが、その他菟道小学校の移転改築をはじめとする

教育施設の充実、公営住宅の建設市道整備、保育所の増設、また昨年から運動公園をとり入れた都市計画事業等、すまよい宇治市のまちづくりを強力にすすめてゆくこととなります。同表中補助事業(国や府の補助金と併せて実施する事業)の支出が少ないのは、国、府の補助金の決定後に実施されるため、まもなく着工、年度内に全部完了する予定であります。

40年度予算に見られる主な事業 (40.9.30現在) <単位千円>

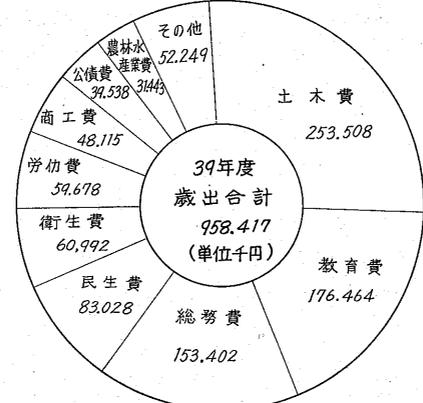
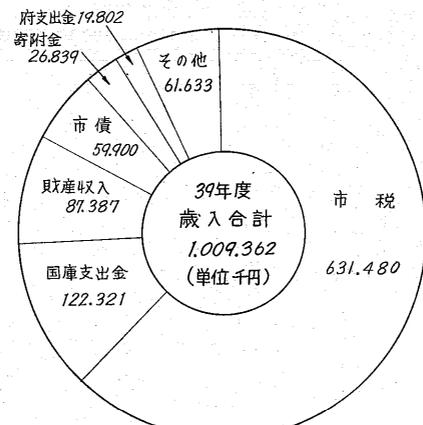
事業名	事業費	支出状況	事業名	事業費	支出状況
補助事業			単独事業		
木幡保育所新設事業	20,482	461	市民会館建設事業	45,435	44,161
仙郷山林道開設事業	6,513	0	公有財産購入	38,911	13,480
道路新設改良事業	3,000	0	隠し取集車購入	4,350	1,258
市営住宅建設事業	27,789	214	土地改良事業	3,752	0
大久保小校舎増築事業	10,498	268	道路橋梁等新設改良事業	21,174	4,104
菟道小移転新築事業	207,310	34,724	学校敷地購入	30,174	0
宇治小校舎増築事業	11,534	82	菟道第二小プール建設事業	6,632	5,388
都市計画事業	105,620	27,744	災害復旧事業	8,821	17
			失業対策事業	62,932	21,360
			計	614,927	153,261



市税の収入状況

市税の税目別内訳及び収入状況を示すと別図のとおりであります。昭和40年度の市税予算は9月30日現在で6億1,300万円、一般会計予算12億6,000万円に対し58%をしめています。そのうちいままでに収入された額は2億7,600万円、前年同様の49%に比べて、3%減と少し成績がおちています。これは、経済界の不況が一因となっているのでありますが、市の財政を左右する市税の徴収成績をあげるためにも、いま一層のご理解をたまたまりたくお願いいたします。

昭和39年度の決算見込



昭和39年度決算見込は、グラフで示されているように、一般会計で歳入が10億936万2千円、歳出が9億5,841万7千円で、差引15,094万5千円の形式的な黒字となりましたが、このうちには40年度へ繰り越された事業に充当する財源が含まれていますので、これを差し引いた4,476万7千円が実質黒字となるわけです。

昭和39年度決算見込における主な事業 <単位千円>

事業名	事業費	事業内容
補助事業		
林道開設	10,642	谷山林道
都市計画	81,366	若森線・井川・仁良川・黄栗公園
公営住宅建設	27,049	第二種プレハブ二階建25戸
大久保小プール	7,018	たて25m 横12m
大久保小体育館	15,627	鉄筋コンクリート平家建170坪
東宇治中体育館	22,244	鉄筋コンクリート二階建224坪
宇治中増築	12,781	鉄筋コンクリート二階建134坪
大久保幼稚園新築	11,220	鉄筋コンクリート平家建110坪
単独事業		
市民会館建設	16,385	継続2年度
土地改良	3,649	伊勢田・矢落・坂川
道路橋梁等新設改良	40,982	道路・橋りょう・河川
住宅用地造成	62,689	南山宅地造成事業
東宇治中用地買収	4,726	
各小学校整備事業	5,303	小中学校整備
新設小学校土地買収	14,626	第二宇治小学校建設予定地買収
失業対策事業	58,316	北山2号線側溝工事等
災害復旧事業	5,489	過年度公共土木災害復旧
計	400,112	

市の財産と負債

昭和40年9月30日現在の市有財産は、表のとおりです。

①積立金は、ある特定の目的で積立てる金銭有価証券等。

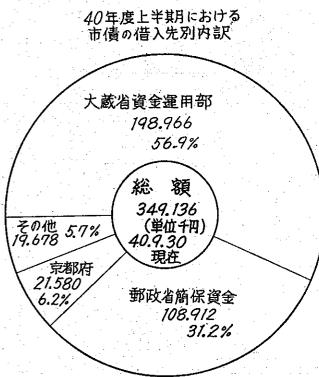
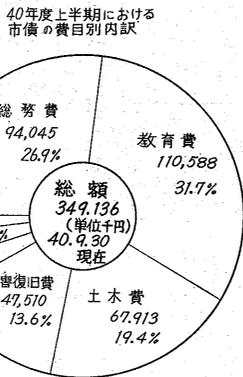
②公用財産は、市庁舎、消防署、塵芥焼却場及び伝染病院等、市が直接公務のために使用する財産。

③公共財産は、学校、幼稚園、保育所、市民会館、公民館、公会堂、公園等直接住民が共同使用できるもの。

④普通財産とは、山林等でこれから生じる収入を一般的に支出にあてるために維持する財産で、議会の議決により普通財産とされた

種別	普通財産		行政財産		基金	計
	千円	坪	千円	坪		
預有価証券	603				42,132	42,735
金	10					10
出資	2,500					2,500
建物	116,837		2,170.87		15,218.34	17,506.055
土地	451,518.64		6,252.00		77,385.68	35,156.32

借入先別及び費目別内訳は別表のとおりであります。一時借入金は、その年度内の予算執行上一時的な金ぐりのために借り入れます。一時借入金の9月30日現在の状況は、一般会計で7,300万円となっています。



水道事業会計

旧陸軍火薬製造所の水道施設を借り受け、市内の一部に給水を開始した宇治市の水道事業は、近年住宅の建設が著しいため給水人口は増加し、なおも増加の一途をたっています。従って、水道を引く家庭が多く、また電気洗濯機の使用などにより給水量も年々増加しています。

現在の市営水道は、宇治、神明、小倉、御蔵山の4浄水場から給水していますが、このうち宇治、神明、小倉の3浄水場の給水能力が1日6,880トンであるのに対し、39年の1日最大使用量は7,729トンであり、給水能力を越えています。このような状態のため

水圧は低下し、断水や給水制限を行ない、各家庭に大変迷惑を掛けてきました。この様な給水状態を解消しようとするため昭和37年度からの建設工事も、本年度末には完成するものであります。この工事が完成しますと、水質が良い、豊富な水量でサービスの向上と市民衛生の増進を図ることができると確信するものです。ところが、この建設工事に2億円に近い金を使ってきました。この資金は、水道料金の収入や一般会計の繰入金だけでは賅うことができないので、大蔵省や公営企業金融公庫などで借金をしています

このため起債元利償還金(借金の返済金)は年々2千万円を越え、またこれに給水をうけるための受水費や水道運営のために要する人件費、物件費など支出経費はふえる一方で、水道会計は年々約5千万円の赤字が生じ、昭和45年度末には、実に2億5千万円の莫大な赤字が累積することが予想されます。このような理由により、やむをえず一般会計からの繰入を行なう外、料金改正をお願いすることに至ったのであります。昭和40年9月30日現在の下水道事業試算表は次のとおりであります。

上水道事業貸借対照表(特別会計) 40.9.30現在 <単位千円>

借方			貸方		
勘定科目	金額	率	勘定科目	金額	率
有形固定資産	195,954	89.0	流動負債	15,414	7.0
土地	5,618	2.6	一時借入金	10,500	4.8
建物	1,411	0.6	未払納金	924	0.4
構築物	60,582	27.5	未償還借入金	3,119	1.4
機械及び装置	18,638	8.5	金庫	791	0.4
車輦及び運搬具	629	0.3	貸付金	80	(0.04)
工具器具及び備品	462	0.2	資本	161,599	73.3
建設仮勘定	108,614	49.3	自己入金	16,784	7.6
流動資産	6,227	2.8	借入金	144,815	65.7
現金	1,275	0.5	剰余金	18,222	8.3
未収金	4,153	1.9	剰余金	13,857	6.3
貯蓄	799	0.4	剰余金	4,365	2.0
営業費用	13,133	6.0	剰余金	24,851	11.3
浄水費	2,736	1.3	剰余金	22,840	10.4
配水費	5,163	2.4	剰余金	2,011	0.9
原水費	4,484	2.0	剰余金	149	0.1
総保費	4,921	2.2	剰余金	39	(0.03)
その他営業費用	4,921	2.2	剰余金	110	(0.07)
営業外費用	4,921	2.2	計	220,235	100.0
支払利息	4,921	2.2			
支計	220,235	100.0			

昭和39年度決算見込の状況

昭和38年4月から公営企業法の適用をうけています上水道事業会計の決算(見込)は、収益的収入支出において、水道事業収益4,006万1千円、水道事業費用3,619万

4千円で差引386万7千円の当年度利益剰余金が生じています。なお、昭和39年度末における業務状況は次のとおりです。

たばこは
市内で買
ましょう

業務状況(昭和40年3月31日現在)

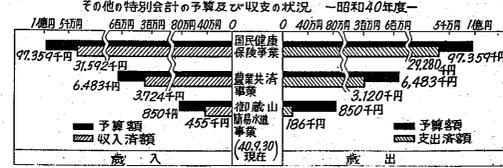
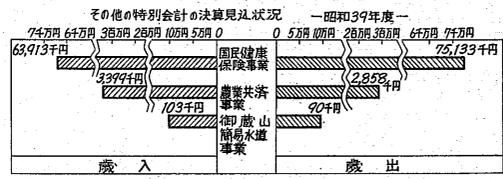
(1) 業務				
イ	年度末	給水人口	人数	31,550人
ロ	年間平均	給水量	水量	7,247 ㎥
ハ	一日平均	配水量	水量	2,305,337 ㎥
ニ		配水量	水量	6,316 ㎥
(2) 事業収入支出に関する事項 [単位千円]				
営業	業外	取	益	39,739
営業	業外	費用		322
営業	業外	費用		40,061
営業	業外	費用		28,070
営業	業外	費用		8,124
営業	業外	費用		36,194
当年度	純利益	(A-B)		3,867千円
(3) 資本的収入支出に関する事項 [単位千円]				
資本的	収入	A		45,027
資本的	支出	B		58,543
資本的	差引	A-B		13,516
摘要	不足額13,516千円は当年度利益剰余金、内部留保資金および繰越工事資金で補填している。			

その他の特別会計

国民健康保険

昭和36年4月1日に事業を開始した宇治市国民健康保険事業も本年度で5年目を迎え、この間被保険者の方が利用される医療費は、年々増加の一途をたどり皆保険制度の確立により相互共済の精神によって、医療の機会均等が与えられると同時に、被保険者の方がたが多くの恩恵をうけられていることは大へん喜ばしいことであります。

ことしの予算中、歳出では保険給付費がそのほとんどで(8,575万円)全体の88%を占めております一方歳入では、医療費に対応する補助金等国庫支出金4,513万円保険税3,675万円が主なるものであります。本年は保険財政の確立は国の責任において解決して行くという姿勢のもとに、一般会計からの繰り入れは行わず独立採算制の基本を立支ることとし、1.518万円の収支の不足分を国庫支出



農業共済

昭和22年12月農業災害補償法に基いて発足した制度で、農業者が自然災害等によって受ける損害を未然に防止すると共にその損害を補填し、農業経営の安定と生産力の増進を図ることを目的として生じた事業です。当初は農業共済組合において事業を行なって来ましたが、昭和39年4月宇治市に事業移譲され、農作物共済と家畜共済を実施しております。

39年度に行なった主な事業は巨椋池地区にヘリコプターによる空中防除を、2,000反余に亘り実施し、その他の地区では地上散布用農薬を支給し、病虫害による損害の防止に努めました。40年度予算においてもこれらを主な事業としております。

御蔵山簡易水道

京阪電鉄KKの住宅建設に伴って完成した同施設を40年1月1日より本市が寄付を受けて、御蔵山簡易水道として事業を開始したものであります。したがって39年度決算額(見込)は3カ月間の収支で、40年度予算は使用料、手数料を主たる財源として、施設の管理費をおこなった予算であります。

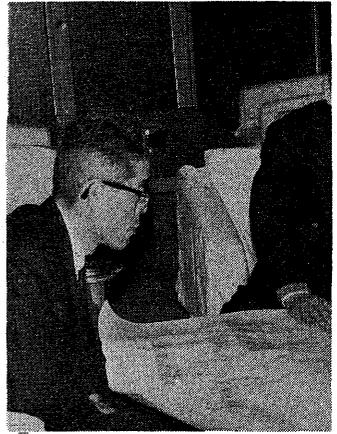
むすび

以上40年度上半期の財政事情と39年度決算(見込)のあらましをお知らせしました。今後の財政については特に経済界の不況が当市にも大きく影響し、特に市税を主とする一般財源の確保は必ずしも樂觀を許さない現状でありますのでなお一層慎重を期し、その円滑な運営をはかってゆきたいと考えておりますので、重ねてみなさんのご協力をおねがいいたします。

1965年市政



教育施設の整備は着々と進んでいるが、相次ぐ生徒数の増加で、現在宇治小、大久保小学校では教室の増築が行なわれている。この東宇治中の体育館も市と地元の協力により、ことしの5月に完成した。



あらゆる要素を踏まえ、夢多の将来を双肩になつて、市長をはじめ市関係者は、今日も慎重な企画検討をくりかえし、七万市民の福祉の増進のために、たゆまぬ努力を重ねています。

◇：すぎゆく年の暮れにあたり、本年宇治市がとり組み、または関連した主な事業やことがらを特集しました。

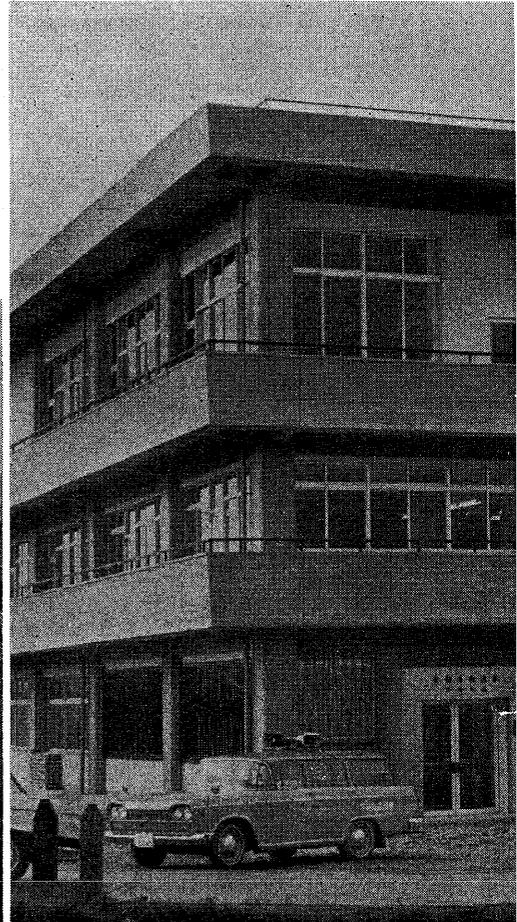
どうか来年も、今年にもまして一層市政にご協力いただきますようお願いする次第です。

では市民の皆さん、よい年をお迎え下さい。



台風24号は住民の願いもむなしく六地蔵、木幡地区の低地にまたもや濁流を流し込んだ。そして一夜にし昭和28年水害を再現した。

しかし、よやく山科川、宇治川の本格的な改修がはじまり悪夢に終止符を打つ日が近づいた。災害はもう今年かぎりであつてほしい、というのが偽らざる住民の心境である。



市民が待ち望んでいた市民会館は、市、府、労働この会館は、市民の教養の広場として活用される。

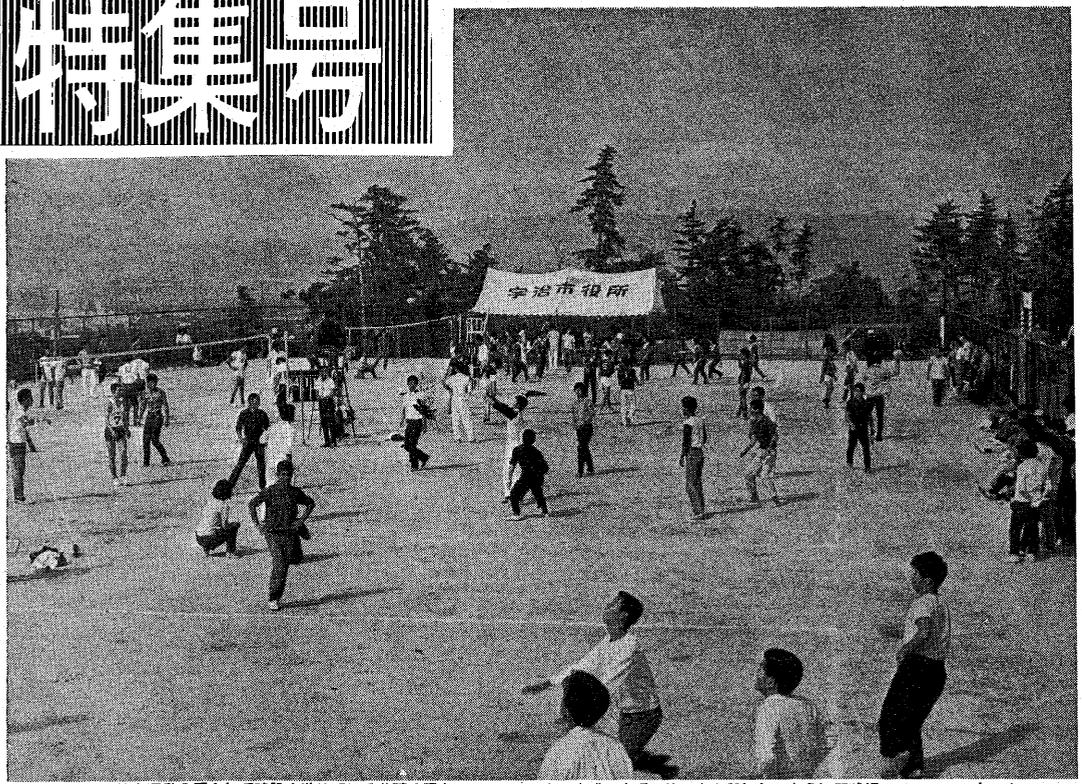


ガラア特集号



◇：昭和四十年もあと僅か、あわただしいなか、やがて新しい年を迎えようとしています。年は移っても、市の行政にとっては、市民のくらしを守るために、積極的な民意をくみとり、より強力な施策と、行政基盤の強化がたえず要求されます。

◇：周知のとおり、わが宇治市は、教年を出して十万余市に躍り出ようとしており、その前途は希望にあふれるものが感じられますが、それだけにとどまらず、反面、近代都市としての整ったまじくくりのうえで、解決を迫られた問題が山積みしているといえましよう。



総合運動公園として建設を進めている黄驢公園も、バレーコート完成で表現に第一歩を印した。さらに野球場、テニスコートなどが年を追うごとに作られ、洛南地区で唯一の大スポーツランドが完成する。



金庫の三者の協同建設で完成をみた。ばかりでなく、文化の殿堂としての役割も押し進めている。

十月一日に行なわれた国勢調査では、飛躍的な人口増加率を示し府下第三番目の都市に成長した。これは最近特に達成のげしい住宅団地の進出によるものだが、これらの団地にも十分な市の行政をゆきとどかせるのが為政者の役目でもある。

